

Adult ADHD Self-Report Scale-V1.1 (ASRS-V1.1) Screener
成人期 ADHD (注意欠陥/多動性障害) の
自己チェックリストによるスクリーニング

世界保健機構の Composite International Diagnostic Interview (統合国際診断面接)より抜粋

© World Health Organization (世界保健機構)

成人期のADHD（注意欠陥/多動性障害）を お持ちではありませんか？

以下の自己チェックリストをご利用ください。

多くの成人が、Adult Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder (ADHD = 注意欠陥/多動性障害) を持っているにも拘わらず、それを自覚していません。なぜなら、その症状はストレスと勘違いされやすいからです。ストレスに似たフラストレーションにしばしば悩まされる人は、成人期のADHDを持っている疑いがあり、その場合は医師の診断と治療を受けることができます。

以下のチェックリストは、あなたが成人期のADHDを持っているかどうかを判断する一助としてご利用いただけますが、この分野の専門家による診断に取って代わるものではありません。正確な診断は臨床評価によってのみ可能です。以下の質問への回答に拘わらず、成人期ADHDの診断や治療を受ける必要があると思われる場合は医師にご相談ください。

このAdult Self-Report Scale V1.1 (ASRS-V1.1) Screener（自己診断チェックリストによるスクリーニング）は、18歳以上を対象としています。

Adult Self-Report Scale-V1.1 (ASRS-V1.1) Screener

世界保健機構のComposite International Diagnostic Interview（統合国際診断面接）より一部抜粋
© World Health Organization（世界保健機構）

	日付				
	全くない	めったにな	時々	頻繁	非常に頻繁
過去6ヵ月間におけるあなたの感じ方や行動を最も良く表す欄にチェック印を付けてください。次回医師に面談する際にこれを持参し、回答結果について相談してください。					
1. 物事を行うにあたって、難関は乗り越えたのに、最後の詳細をまとめて仕上げるのが困難だったことが、どのくらいの頻度でありましたか？					
2. 計画性を要する仕事を行う際に、作業を順序だてるのが困難だったことが、どのくらいの頻度でありましたか？					
3. 約束や用事を忘れたことが、どのくらいの頻度でありましたか？					
4. じっくり考えなければならない作業がある際に、その作業に取り掛かるのを避けたり遅らせようとしたことが、どのくらいの頻度でありましたか？					
5. 長時間座っていなければならない時に、手足を揺すったり身悶えしたりしたことが、どのくらいの頻度でありましたか？					
6. まるでモーターに動かされているように、異常に活動的だったり、何かしなければという衝動に駆られたことが、どのくらいの頻度でありましたか？					

濃い色の部分に付けたチェック印の数を合計してください。4つ以上なら、あなたの症状が成人期ADHDの症状と共通している可能性があります。その場合は、臨床評価について医師に相談されることをお勧めします。

上記6問のAdult Self-Report Scale-Version1.1 (ASRS-V1.1) Screenerは、世界保健機構による18問のAdult ADHD Self-Report Scale-Version1.1 (Adult ASRS-V1.1) Symptom Checklistの一部です。

AT28491 PRINTED IN USA. 3000054636 0903500 ASRS-V1.1 Screener COPYRIGHT © 2003 World Health Organization (WHO). 世界保健機構の承諾を得て再版。 All rights reserved.

成人期ADHD (注意欠陥/多動性障害) スクリーニングの重要性

研究によれば、ADHDの症状は大人になっても継続し、その障害¹⁻⁴を持つ人の人間関係やキャリア、延いては個人の安全にさえも深刻な影響を与えかねないといえます。また、ADHDはしばしば誤解されがちなため、この障害を持ちながらも適切な治療を受けることができず、その結果、自分の持つ可能性を最大限に生かすことなく人生を送ってしまうケースが多々あります。問題の一つは、この障害の診断が、特に成人において困難であるということです。

Adult ADHD Self-Report Scale (成人期ADHD自己チェックリスト) =ASRS v1.1とその採点システムは、下記の精神科医や研究者を含む成人期ADHDワークグループと世界保健機構との共同作業によって開発されたものです。

Lenard Adler, MD

Associate Professor of Psychiatry and Neurology

New York University Medical School

ニューヨーク大学医学部 精神・神経医学科准教授 レナード・アドラー医学博士

Ronald Kessler, PhD

Professor, Department of Health Care Policy

Harvard Medical School

ハーバード大学医学部 ヘルスケアポリシー部門教授 ロナルド・ケスラー医学博士

Thomas Spencer, MD

Associate Professor of Psychiatry

Harvard Medical School

ハーバード大学医学部 精神医学科准教授 トーマス・スペンサー医学博士

医師や専門家の方々はこのASRS v1.1を成人期ADHDのスクリーニングツールとして利用し、その結果によっては、さらに詳しい臨床面接を考慮されるとよいでしょう。ASRS v1.1の質問事項はDSM-IVでの基準と合致しており、成人におけるADHDの症状を表しています。DSM-IVではまた、正しい診断のためには症状や障害、既往歴が重要であるとされており、チェックリストの質問内容はそれを反映しています。

このスクリーニングを行うことにより、診断プロセスにおける重要な補足情報がわずか5分弱で得られます。

参考：

1. Schweitzer, J.B., Cummins, T.K., Kant, C.A. Attention-deficit/hyperactivity disorder. *Med Clin North Am.* 2001;85(3):10-11, 757-777.
2. Barkley, R.A. *Attention deficit hyperactivity disorder: a handbook for diagnosis and treatment (2nd ed.)*. 1998.
3. Biederman, J., Faraone, S.V., Spencer, T., Wilens, T., Norman, D., Lapey, K. A, et al. Patterns of psychiatric comorbidity, cognition, and psychosocial functioning in adults with ADHD. *Am J Psychiatry.* 1993;150:1792-1798.
4. American Psychiatric Association. *Diagnostic and statistical manual of mental disorders, (4th ed., text revision)*. Washington, DC. 2000:85-93.